

新計画策定会議のこれまでの活動について

核燃料サイクル政策に係る政策評価から調査審議を行っており、7月29日の策定会議では、コスト試算など専門的な作業を行うための技術検討小委員会を設置しました。その他の政策課題（例：研究開発、国民との調和、国際社会との調和など）について、順次調査審議を行う予定です。

核燃料サイクル政策に係る評価を幅広い観点から実施するため、以下の視点から総合的な評価を行っています。

<p>安全の確保（各シナリオにおいて安全の確保は図られるか） エネルギーセキュリティ（資源の節約、供給安定性） 環境適合性（循環型社会との整合性、放射性廃棄物の諸量比較、CO₂ 発生量等）</p> <p>経済性 核不拡散性（核不拡散、核物質防護の観点からの比較） 技術的成立性（各シナリオにおいて技術の困難性はどうか） 社会的成立性（各シナリオにおいて必要な施設の立地が可能か） 選択肢の確保（各シナリオにおいて将来の柔軟性はどのように確保されるか）</p> <p>政策変更するとした場合の課題（既有の投資の扱い、新規発生コスト、他の原子力事業への影響）</p> <p>海外の動向</p>

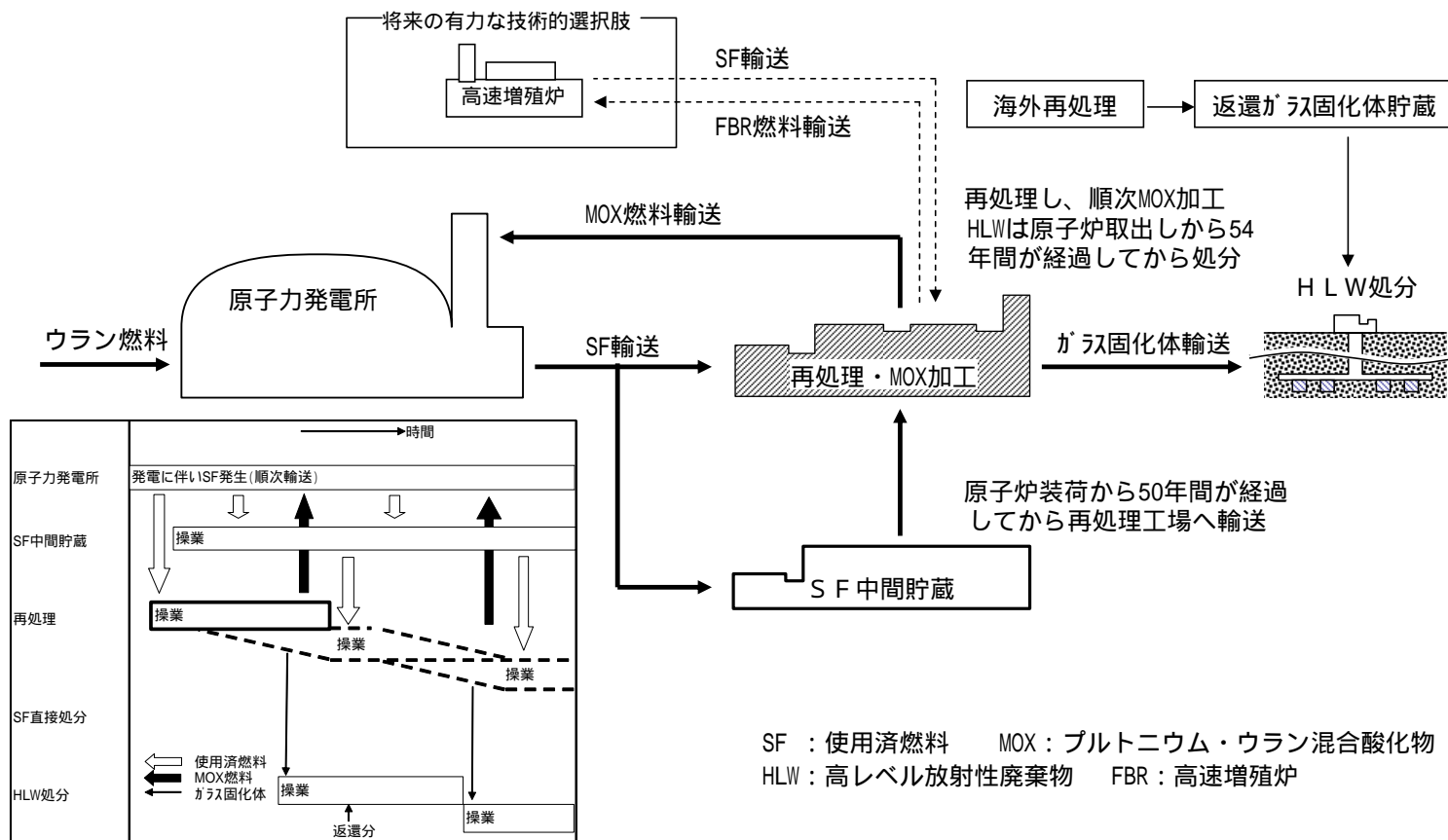
核燃料サイクル政策を総合評価するためのツールとして、次ページ以降の「基本シナリオ」を設定しました。なお、「基本シナリオ」は、あくまでも評価のツールとして仮想的に設定したものです。

（参考）これまでの新計画策定会議の開催実績

- 第1回（6月21日）：新計画策定に際しての意見の聴取 等
- 第2回（7月 8日）：新計画にかかる審議の重点分野と政策検討の視点について検討 等
- 第3回（7月16日）：核燃料サイクル政策に係る評価の視点について検討 等
- 第4回（7月29日）：核燃料サイクル政策の評価のための「基本シナリオ」について、技術検討小委員会の設置 等
- 第5回（8月11日）：核燃料サイクル政策の評価のための「基本シナリオ」について 等
- 第6回（8月24日）：安全の確保、基本シナリオの核燃料サイクル諸量の分析 等
- 第7回（9月3日）：エネルギーセキュリティの視点、社会的受容性について 等
- 第8回（9月24日）：開催予定

核燃料サイクルの基本シナリオ

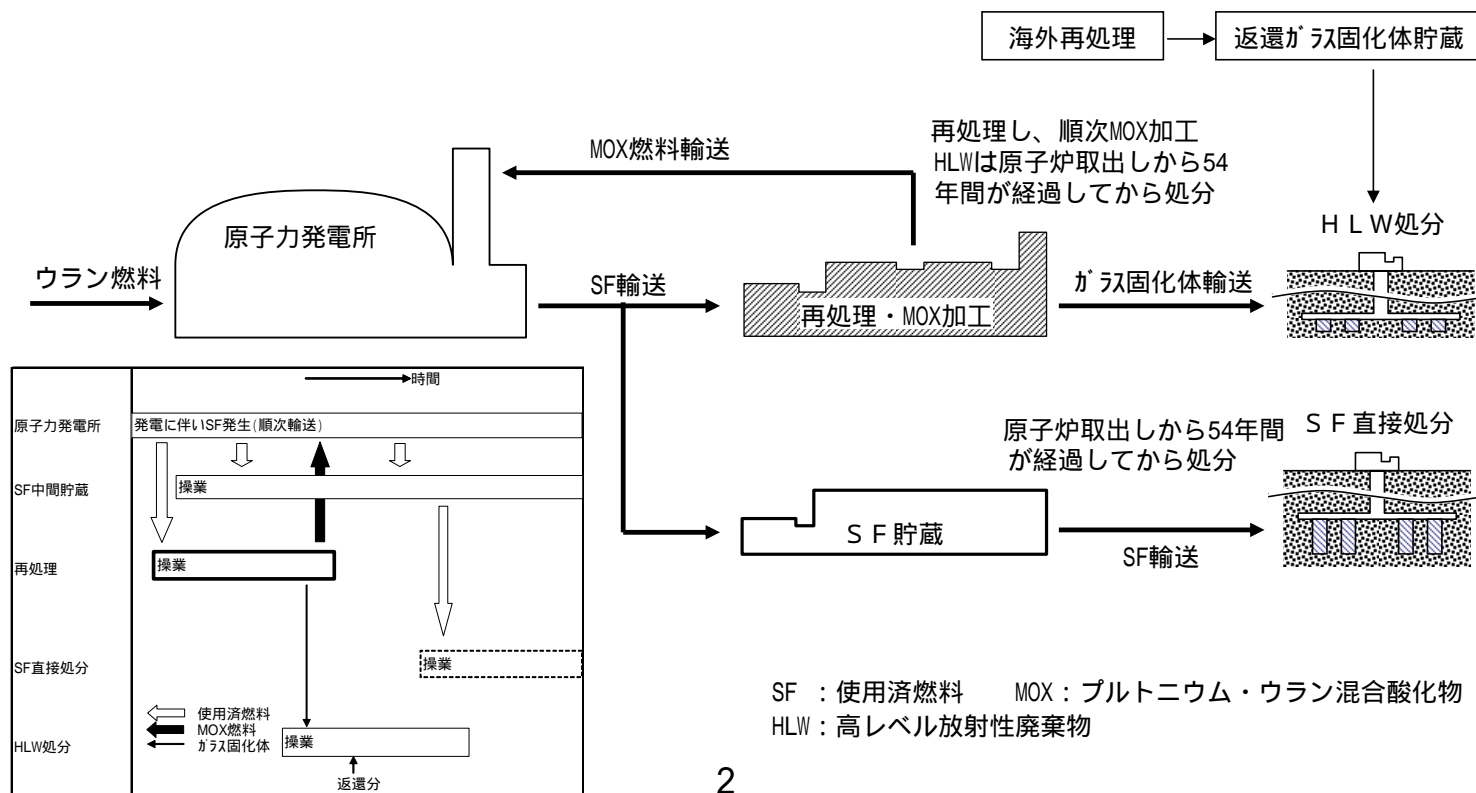
全量再処理 〔全ての使用済燃料を再処理する。但し、再処理工場の処理能力を超過する使用済燃料については中間貯蔵を経た後、再処理される。また、将来の有力な技術的選択肢として高速増殖炉サイクルが存在する。〕



核燃料サイクルの基本シナリオ

部分再処理

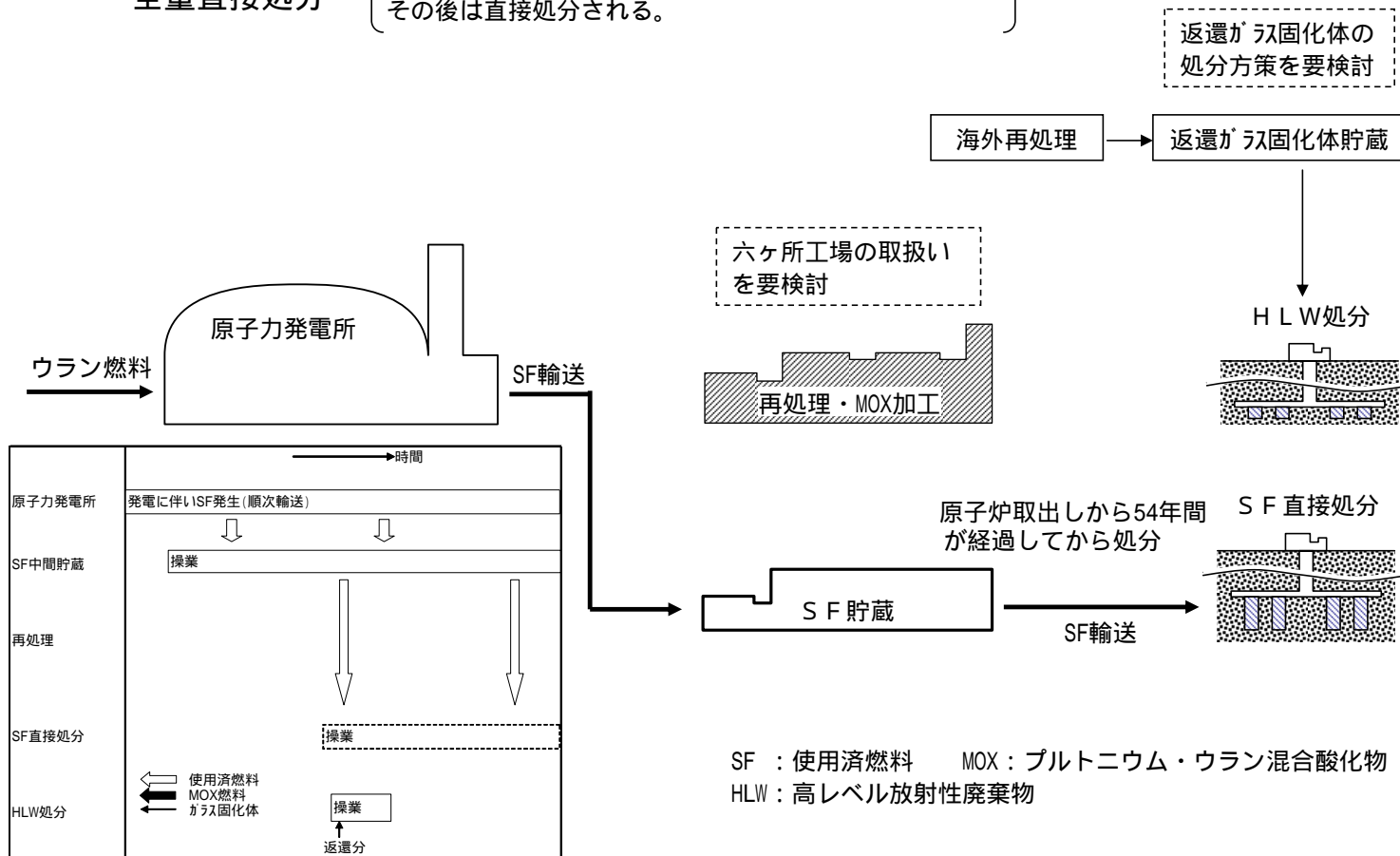
六ヶ所再処理工場において再処理を行うとともに、六ヶ所再処理工場の能力を超過する使用済燃料は中間貯蔵後に直接処分される。また、六ヶ所再処理工場運転終了後は全ての使用済燃料が中間貯蔵後に直接処分される。



核燃料サイクルの基本シナリオ

全量直接処分

（全ての使用済燃料は、冷却のため必要な期間貯蔵される。
その後は直接処分される。）



核燃料サイクルの基本シナリオ

当面貯蔵

〔全ての使用済燃料は、当面の間中間貯蔵される。その後は適切な時期に、それを再処理し資源として利用するか、直接処分するかを決める。〕

